

平成30年度 障害学生支援専門テーマ別セミナー【高大連携】
分科会A【高校・特別支援学校】

大学における 障害学生への支援の概要

筑波大学 人間系
岡崎 慎治



発達障害と思春期

- 誰もが思春期に乗り越えるべき課題＋発達障害に関わる特性（認知特性）によって生じる課題
 - Ex. 自分がみんなと何かが違うことの自覚
 - 何がどう違うのかまでは理解できない→疎外感⇒「自分らしさ」と「集団の一員としての自分」の間の揺れ動き（同一性の拡散）
- 失敗体験の反復，注意・非難・叱責体験の反復，指摘されても何が悪いのか分からない，尋ねられない
- 自己の存在自体への疑問（自尊心低下）
⇒被害的な認知様式・行動（⇔盲目的に周囲の指示や声かけに従い続けないと不安）

発達障害の思春期問題から

- 典型発達児と比較して小さなストレスとその蓄積から生じやすい(本人と周囲の感じ方の違いも)
- 自分に向きあうこと自体の負担の大きさ
- 認知特性とそれにともなう失敗経験, 叱責経験の蓄積
- 本人が考えることをことばにする力をのばす機会, ことばにすることを評価される機会を継続的に確保できるか
- 本人の考えを受け止められる機会が継続的に確保できるか
- それらを本人が納得して利用できる体制があるか

支援にあたっての原則

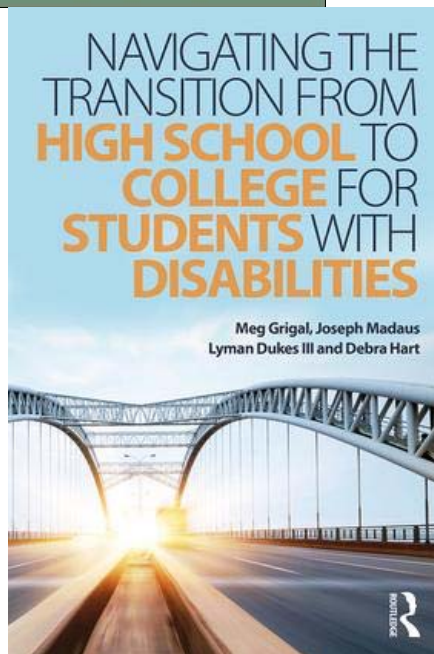
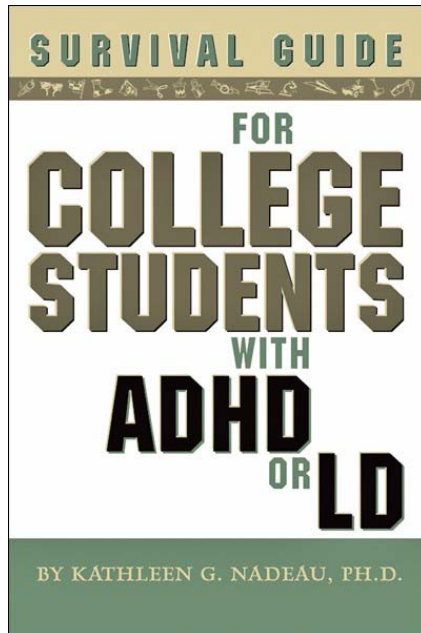
- 発達障害をその人へのスティグマ（汚名，烙印）としない
- 発達障害のある子どもも自分らしく生きる権利を持っていること，違いを認めることを共通認識する
- 本質的な難しさ（一次障害）の存在にできるだけ早く気づき，二次障害への進展を最小限に抑える
- 知的能力や認知，行動面の能力が実年齢より下回るとしても，生活の中では基本的に実年齢として扱うべきである
- 対応の方向が何であれ，最大の目的は本人の自尊心低下，自己否定を回避すること
- 思春期以降の対応では本人の自己理解と周囲の理解が必須（障害名として（だけ）ではなく，自分の得意や苦手の特徴として，そして苦手さへの対処方法があることについて）

「自分のこと」を知る

- 「自分のこと」を伝えるための前提条件
 - － 子ども本人の理解力
 - － 自分自身への“気づき”
 - － 伝えるべきことと伝えるべきではないことの区別
- なにを伝えるか
 - － 自分の特性が長所にもなりうることを知る
 - － 難しいことを積極的に伝えること&難しいことへの対策方法があることを伝え、ともに考えること
 - － ある個性が自分のすべてではないことを知る

支援の方向性

- 治るもの、克服すべきものとはとらえない
- ある制約や困難につながる特性を持ちながらも社会生活を送る上でトラブルを最小限にできるような「うまい」生き方を教えるべき存在として
- 苦手なことを知っていてそれをうまく処理するためにどうすればいいかを知っており、実行できること



海外の支援例

- 書籍の例

- Nadeau, K.G. (2006) Survival Guide for College Students With ADHD or LD, Second Edition. Magination Press.

- Grigal, M., Madaus, J., Dukes III, L.L., and Hart, D. (2018) Navigating the Transition from High School to College for Students with Disabilities. Routledge.

- いずれも生徒本人が自分の特性を知り、それに基づく適切な進路としての大学を選ぶためのノウハウについて記載

Study SkillとLearning Style

- Study Skill
 - 基本的な学びの技術
 - 定義はさまざま; 学習者が置かれる環境でも変化
- Learning Style
 - その人の学習能力に影響する種々の構成要素
 - 学習に対する好み (Preference) 等
- Study SkillとLearning Styleはその人の学習に相互作用的に影響する
- 発達障害学生にとってこれらを自然に習得することがしばしば困難 / (適切な) 自覚のしにくさ

海外のLearning Styleの評価測定

- **Kolb Learning Style Inventory**
 - 行動型(Activist), 観察型(Reflector), 理論型(Theorist), 実践型(Pragmatist)
- **Myers-Briggs Type Indicator (MBTI)**
 - 4つの相対する次元:ものの見方(感覚・直観), 判断のしかた(思考・感情), 興味関心の方角(外向・内向), 外界への接し方(判断的態度・知覚的態度)
- **VARK (Visual, Aural, Reading, Kinesthetic)**
 - 情報の入出力に関する個々の傾向をVisual(見る), Aural(聴く) Reading/Writing(読む／書く), Kinesthetic(運動)の側面から評価
 - Strategies for enhancing learning

VARKに基づく学習スタイルの例

- Visual(見る)
 - 地図や図表, 絵や写真, 動画などを使う
 - 数字を覚える時などにも, 数字を見るのではなく, キーボード上での指の動きのパターンを視覚的にとらえた方が覚えやすい
- Aural(聴く)
 - 講義や議論を通じた学習
 - 歌詞などのリズムを伴うと覚えやすい。
- Reading/Writing(読む／書く)
 - 文字, 書き言葉を使うと情報を取り入れやすい
 - 何かについて知りたい時は, それについての文章を読んだり, 自分で説明する文章を書いたりすると学びやすい。数字を覚える時は, 紙などに書いたり数字の語呂合わせをするのがよい。
- Kinesthetic(運動)
 - 体の動きを利用して情報を取り入れる
 - 覚えた時に自分がいた場所, 覚えた時の体の感覚などを手がかりにする
 - 反復練習という学習スタイルが最も効果的
 - 数字を覚える時には, キーボードでダイアルすることを指のダンスのようにしてしまっ、そのダンスを練習するとよい。

TEN TIPS

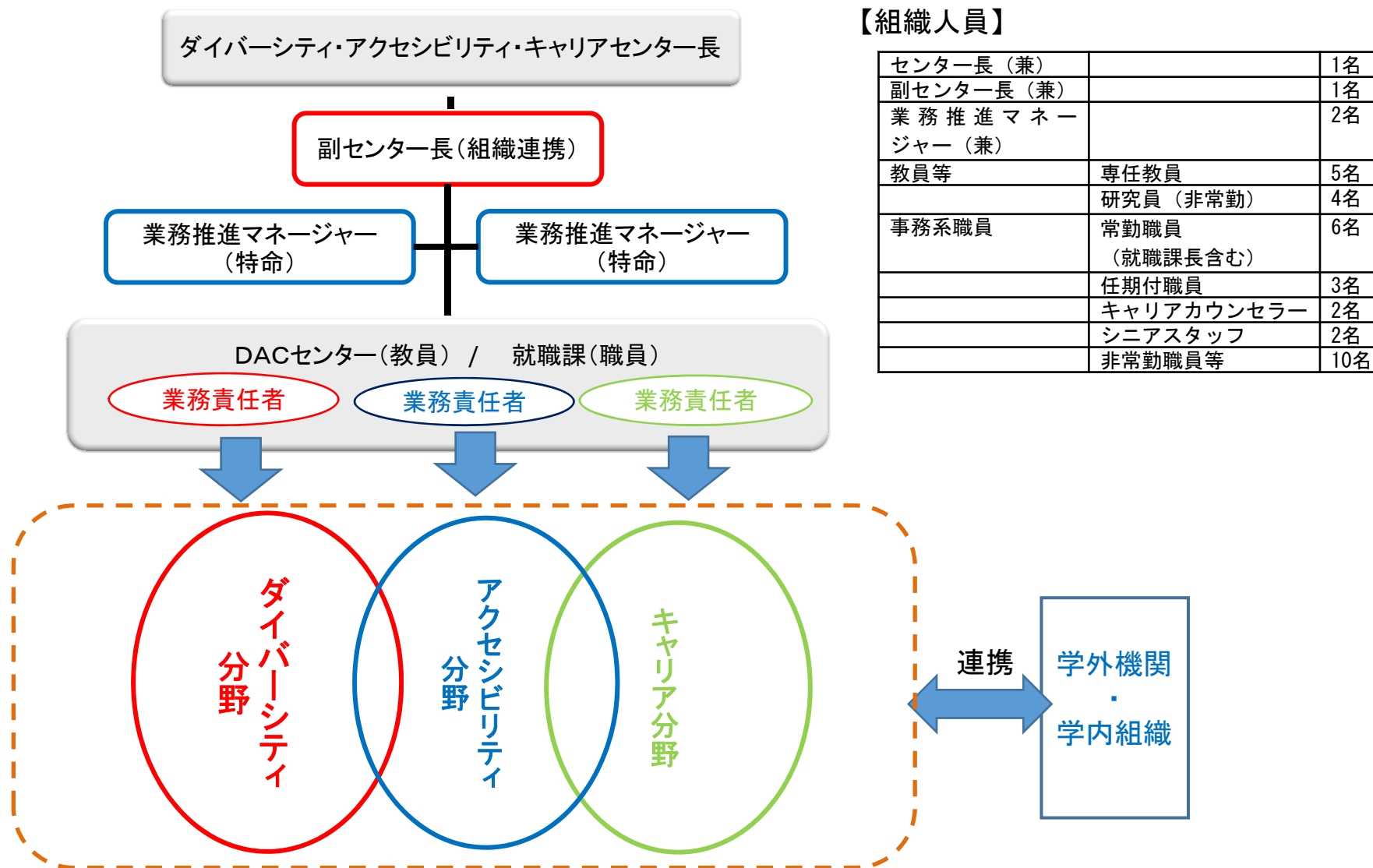
FOR STUDENTS WITH DISABILITIES...

FROM STUDENTS WITH DISABILITIES

1. Disability accommodations are rights, not special help.
Ask for what you need. Advocate for yourself.
2. You are an important and valuable part of campus diversity.
Diversity includes disability.
3. College disability services offices can be gatekeepers.
Most are good allies for students, but some are not. Demand professional, individualized, respectful services and file a complaint if you don't get them.
4. Feed your soul and body.
Balance your valuable time, energy, and health.
5. Stay focused on your career.
If it won't help you get a job or maintain your passion for college, don't bother.
6. Find a community.
Never go it alone. Consider connecting with others who have disabilities.
7. Universally design your own learning.
Learn how you learn best, and then use your strengths and unique learning style.
8. Never apologize for your disability or your accommodations.
If you apologize, people may think you are ashamed.
9. Fight oppression and bullying in any form.
Ableism is just one "ism." If one of us is oppressed, all of us are oppressed.
10. Learn disability history.
Learn about the people and movements that made it possible for you to be in college.



ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリア (DAC) センターの体制図



【組織人員】

センター長(兼)		1名
副センター長(兼)		1名
業務推進マネージャー(兼)		2名
教員等	専任教員	5名
	研究員(非常勤)	4名
事務系職員	常勤職員(就職課長含む)	6名
	任期付職員	3名
	キャリアカウンセラー	2名
	シニアスタッフ	2名
	非常勤職員等	10名

DACセンターにおける修学支援の例(全体)

視覚障害学生への支援

- * テキストデータ化
- * 対面朗読や文章代筆
- * レポート等の作成補助
- * 視覚補助具や支援機器の貸出
- * 視覚障害学生支援・準備室の提供
- * 定期試験時の支援
 - 時間延長
 - 別室受験
 - 資料の拡大 等

運動・内部障害学生への支援

- * 移動支援（福祉タクシーの利用も含む）
- * ノートテイク支援
- * 資料整理の補助
- * 支援機器の貸出
- * 運動・内部障害学生支援・準備室の提供
- * 定期試験時の支援
 - 時間延長
 - 別室受験 等

聴覚障害学生への支援

- * 情報支援
 - 手書き要約筆記
 - パソコン要約筆記
 - 手話通訳
- * 聴覚障害学生支援・準備室の提供
- * 補聴相談
 - 聴力測定
 - 語音聴力測定
 - 支援機器の貸出（FMシステム等） 等

発達障害学生への支援

- * 関係組織との連携
 - 保健管理センター（精神面・生活面）
 - 就職課
- * 修学に係る定期的な個別面談
 - 履修について
 - 授業中・試験での配慮について
 - レポートについて 等
- * 教育組織との連絡調整 等

DACセンターにおける発達障害学生に対する支援内容

- 配慮依頼文書の作成
- 関係組織との連携
- 出張FD研修会の実施 など

関係組織との連絡調整

- 学生本人からのニーズ聞き取り
- 心理検査の実施
- 特性を踏まえた解決法の提案と協議 など

面談による個別支援

- スマートペン
- ハンドスキャナ
- ノイズキャンセリングイヤホン など

支援機器の貸出

- 発達障害学生と障害のない学生のグループ活動
- 発達障害学生向け就職活動準備講座など

集団活動の開催

発達障害学生向けの貸出用支援機器(例)



スマートペン

http://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/20140516_648883.html



インターバル
タイムタイマー



学習お助けブック



忘れ物防止タグ



ノイズキャンセリング
ヘッドフォン



ハンドスキャナ

<http://direct.sanwa.co.jp/ItemPage/400-SCN001>

※一定期間希望する学生に貸し出して、今後も必要であれば、自分で購入してもらう

障害のある学生を対象としたキャリア支援に関するプログラム



障害学生キャリアツアー



障害学生向け就職ガイダンス



Career Café

【その他】

- 障害学生のための合同企業説明会の開催
 - 障害学生受入企業へのインターンシップの活用
- ※発達障害学生についても
平成28年度から実施